

「自分史」づくりの出発式 学生による取材がスタート



学生達はグループに分かれて取材を開始。写真は佐々木千栄子さん（佐須）の取材の様子です。

村民20人の自分史を本にまとめる「自分史づくり」の聞き取り取材が始まりました。この事業の実施は、昨年に続く2回目で、公募した村民への取材は、村と協力協定を結ぶ福島大学の学生が行います。

7月16日には、村役場に隣接するビレッジハウスで出発式が行われ、式の後には、菅野村長が講演。集まった学生に、村の現状や事業の意義などを伝えました。その後、学生達は、村内や避難先の村民のもとを訪れて、早速取材を開始。1月頃の自分史集発行を目指して、事業が本格的にスタートしました。

スポーツ公園に絆の植樹 名古屋城北ライオンズクラブ



名古屋城北ライオンズクラブ、飯館ライオンズクラブの役員らが出席。寄贈の式を行いました

名古屋城北ライオンズクラブから贈られたヤブツバキの木が、「いいいてスポーツ公園」に植樹されました。

同クラブは、震災の年、飯館ライオンズクラブを訪ねて義援金を手渡し激励。飯館ライオンズクラブも、節目の年の祝賀に名古屋を訪れるなどして、交流を続けてきました。約4mのヤブツバキは、交流の記念にと寄贈されたもので、6月27日に行われた植樹式では、「絆記念樹」と記した記念杭（くい）の除幕も行われました。

ふるさとを学ぶ中学生が 道の駅で村民にインタビュー



道の駅に出品している漬物や凍み餅を見せて説明する高橋トク子さん（左手前）と真剣に聞く中学生

7月18日、飯館中学校の生徒が、「いいいて道の駅までい館」を訪れ、村民が生産した野菜や花などを調べ、出品している村民へのインタビュー取材も行いました。中学生が話を聞いたのは、さまざまな加工食品を道の駅に出品している高橋トク子さん（深谷）と、村に移住をして花の生産に取り組んでいる伊集院博さん（大久保・外内）です。中学生は、一生懸命メモを取りながら、2人の話に耳を傾けました。また、村の復興対策課農政第一係の職員からも話を聞き、農業再生の現状について学んでいました。

村が学びのフィールドに 福島大学食農学類が来村



村内のさまざまな地域を視察しました。視察の後半、比叡地区でバスを降り質疑応答する学生と職員

7月4日、福島大学食農学類の学生・教員らが、村内の見学を行いました。同大学では今年度に食農学類が開設され、食品科学・農業生産・生産環境・農業経営などを学ぶ学生が、各地でフィールドワークを行います。そのフィールドの一つとなっている飯館村へ、22人の1年生がバスで訪れました。現地や主要施設などの視察には、復興対策課農政第一係から職員が同行し、村の農業の状況を説明しました。村は同学類と連携協力の協定を結んでいて、学びの成果は村の農林業の振興にも役立てられます。

アクアエクササイズ教室で 水中運動の効果と楽しさを実感



上半身の動きをつけたウォーキングや、音楽をかけたリズムカルな運動などを、楽しく体験しました

7月21日、学校エリアの屋内プールで、「アクアエクササイズ教室」が開かれました。この教室は、生涯学習課の主催で、スポーツクラブなどで指導を行っている遠藤恵さんを講師に実施しました。アクアエクササイズとは、水中運動のことで、心肺機能を高めながら筋力をつけることができると注目されています。また、泳ぎに自信がなくても、膝や腰に痛みがあっても効果的な全身運動ができるそうです。参加した人は、「陸上ではできない動きができていいですね」「今日をきっかけに続けたい」と話していました。

星に願いを… こども園で「たなばたかい」



楽しい「たなばたかい」のフィナーレには、円を作って仲良く「ドラえもん音頭」を踊りました

7月5日、「までのりの里のこども園」で、「たなばたかい」が開かれました。園児は、かわいらしい浴衣姿・甚平姿に、星の飾りを身に着けて、ホールに集合。ホールには、「しょうぼうしになりたい」「アンパンマンになりたい」など、願い事を書いた短冊が揺れる、笹飾りが飾られていました。園児は、七夕の由来となっている物語を、職員が演じるパネルシアターで楽しんだり、七夕の歌を歌ったりして、和やかにひとときを過ごしました。みんなの願い事が、叶うといいですね。